

第2回垂水市立学校の在り方検討委員会 会議録

日 時	令和7年10月31日（金曜日） 午後2時00分から午後3時30分
場 所	垂水市市民館 大ホール
出席者	出席委員33名（欠席7名）、オブザーバー1名、教育委員会事務局4名
概 要	<p>1 開 会 2 教育長あいさつ 3 委員長あいさつ 4 議 題</p> <p>(1) 委員アンケート調査の実施について（議事承認） 委員アンケートの内容等について協議</p> <p>(2) 義務教育学校の現状、取組について（オブザーバー説明）</p> <p>【委 員】義務教育学校について、小学校だと年生が、幼稚園だと年長さんが、最上級学年となり、責任を持つような仕事があるかと思う。義務教育学校は、9年生だけが持つのか、4年生や7年生もということになるのか、それとも小学校のように6年生はある程度、そういうことがあるか。</p> <p>【オブザーバー】9年制について、最終ゴールを9年生、ミドルゴールを5年生というところで薩摩川内市は位置づけしていた。6年生について、生徒会活動に児童を入れるとことで6年生の活躍の場を作っていた。また、卒業式は9年生だけだが、6年生は、前期課程修了としていた。</p> <p>【委 員】義務教育学校の施設形態の違いはどうなっているか。</p> <p>【オブザーバー】一体型は同一の建物内にあるもの、分離型は比較的遠い敷地でそれぞれの校舎があるもの、隣接型は敷地が近いところにそれぞれの校舎があるもの。</p> <p>【委 員】東郷学園が開校されるとき校舎は新たに新設されたものか。</p> <p>【オブザーバー】新しい土地に新しく建てられた学校である。</p> <p>【委 員】教員は前期担当、後期担当と決まっているのか。また、義務教育学校のデメリットがあるか。</p> <p>【オブザーバー】原則として前期は小学校、後期は中学校の教員になる。中学校の英語や数学の教員が小学校に入らうることは可能であると思う。義務教育学校に勤務して、デメリットを感じたことはないなと思ったのが正直なところである。例えば、どうしても中1ギャップという生徒はいるが、少ないと感じた。カリキュラムが変わり連続性があり、登校しにくい生徒がいれば、前期課程の担任等と連携を取り、保護者を含めて話ができる。</p> <p>(3) 保護者・児童アンケート調査の結果について（事務局報告）</p> <p>【委 員】アンケート結果を見る限り子どもたちの意識は統合するような方向性が見えてくるが、事務局として分析結果のようなものがあるか。</p>

【事務局】9割の子どもたちが10人以上の学級を望んでいることから、事務局でも同様の結果と捉えている。

【委員】統合に関して各学校の授業等で意識の醸成をされているか。

【委員】中学校に向けて調べることははあるが、人数が増えるということを考えさせることはない。

【委員】統合に向けて話をしている状況はない。

【委員】保護者については説明を行い、第1回の内容を自覚している。

【委員】保護者の方との関係をきちんとして、職員も状況を把握し対応している。

【委員】職員から、こう回答した方がいいということはない。今回のアンケートを子どもたちが回答するときは、できるだけ理由を詳しく書いてということで、話をした。また、各職員の考え方も、聞くようにしていきたいと思う。

【委員】とにかく子どもたちの利益を最優先に議論していく必要があると考えている。

【委員】保護者の目線に立ってみると、自分の子どもがこの先どうなっていくのだろうかと感じられる文面が多いというのが率直な意見である。デメリット、メリットもあると思う。不登校等は表に出ていないのも実際あると思う。これは小学校、幼稚園、保育園だけではなく、認定子ども園、小学校に行ってからも学年ごとに相談受けている児童というのは増えているのかなと、私自身、現場におり感じている。安心安全、子どもの心のケア、不登校について問題になっている。支援が必要な子どもへの対応が重要と考えるが、統合するにあたり一番大事にしているところを伺いたい。

【教育長】一番は子どもの安全安心と考えている。中学校では教室に入れない子どもたち用の教室を設置しており、小学校では不登校の子どもたち用にサテライト教室というものを牛根、水之上、新城に配置している。本市では児童生徒数に対し特別支援教育支援員が充実していると思うので、統合するとしても、その状態を確保していくことで対応したいと考えている。

【委員】統合するにあたり不登校になる原因に対してどのように対応していくのかが大事になってくると思う。

【事務局】不登校の原因の1つめとして、家庭環境の問題があると思うが、スクールソーシャルワーカーの活用や専門医のスクールカウンセラーの配置で対応できると思われる。2つめは、小規模校から中学校になったときに適応できなくなる子どもが多くなるが、早くから交流し仲間づくりをすることが有効と考えており、直接交流やタブレットを使用した遠隔合同授業を行っている。

【委員】支援員が充実していることは事実だと思うが、子どもの不安に対して、学校、地域、保護者が聞いてあげ、同時に保護者が子育てをする中での不安を聞きながら、それに対応していくことが大事である。各々の立場で子どもにとって何が大事なのかということを考えることができればよいと思う。

(4) 様々な学校再編のイメージについて（説明）

【委 員】 1校に再編する資料にあるとおり、1・2年生が2学級になるということをよいと思う。急に人がいなくなることもあると思うので、準備期間が短くなるが、令和10年などで再編されると職員が多く確保でき1人のハードルは低くなるを感じている。

【事務局】 1年生は大きな人数よりも、少し少なめの方がよいと思っている。鹿児島県の場合31人いれば2学級できるということで、加配措置をうまく活用できればと思っている。そのような場合、35人いれば1クラス20人弱ですので担任の先生も非常に指導がしやすいと考えている。

【委 員】 1校に再編となると、スクールバスを運行しても、長時間乗車することになるため、3校への再編の方が実現しやすいと思う。垂水市では遠隔授業等が進んでいると見受けられる。そのことを考えると、今の時点で1校に再編することはリスクが高く感じるので、もっとほかにできることがあるのではないかと思う。

【教育長】 垂水中央中学校のスクールバスでいうと境を7時17分に出て、8時に着く状況である。委員アンケート調査の問3「再編に向けて答申書に盛り込むべき意見や要望」をいただければ、対応を含めて進めていけると考えている。一番不安に思っているのは、出生者35人が垂水市内の小学校にきてくれるのかというところである。そこを踏まえて、将来の子どもたちのことを考えていかなければならないと思っているので、ご意見・要望等をいただければありがたい。

【委 員】 子どもたちの学習活動として、遠隔合同授業というのがある。この授業は画面越しに一緒に学びを共有するところが一番のメリットである。また、野球のような活動をするときは、ある程度人数がいなければ成立しにくいところがある。両方の視点から検討していくことが必要でないかと思っている。中学校では通学に1台のバスを運用しているが、例えば小さな直行便のバスを運行するという方法もあったり、彈力的な取組が考えられると思う。一概にメリットがあるからこうなんだという考え方もあるが、どういった子どもたちを育てていくことが一番であるかという視点から考えていき、予算的に解決できるものなのか、教育的な価値があるのかといったことで検討していかなければと思う。

(5) そ の 他

特になし

9 閉　　会